

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書（7）

県営特殊農地保全整備事業（豊留地区）

に伴う埋蔵文化財確認調査報告書

まき はら
牧 ノ 原 A 遺 跡

まき はら
牧 ノ 原 B 遺 跡

おお はら
大 原 遺 跡

1991年 3月

鹿児島県曾於郡松山町教育委員会

序 文

新橋豊留地区で、特殊農地保全整備事業を行うにあたり、この地域は文化財の包蔵地であるので、牧ノ原A遺跡、牧ノ原B遺跡、大原遺跡を10月16日から11月23日までの間発掘調査をしました。調査面積は3,600㎡になりました。

この近くにあり、昨年発掘調査をしました井手間遺跡、山ノ田遺跡からは弥生時代の住居跡、縄文時代の遺物等が出土していますので、あるいはという期待を持ちながらの発掘でした。

調査の結果は、縄文時代晩期の土器が多数、縄文時代後期の土器が少量出土しました。このほかに歴史時代の遺物が出土し、その中に「宮」の字が書いてある「墨書土器」と呼ばれる椀が初めて出土しました。

昨年からの調査とも関連してどこかこの付近に、昔中心になって生活していたあとがあるのではないかと想像することです。

農地整備の必要性からの発掘ばかりでなく、遺跡保存の立場からの発掘まで手が届く時になったらこの地域一帯のどこかに有力な候補地が出てくるのではないかと考えているところです。

最後になりましたが、積極的に発掘作業に従事していただいた方々、またいろいろと御指導いただいた県教育庁文化課の先生方に厚くお礼申し上げます。

平成3年3月

松山町教育委員会教育長 加世田 實

例 言

1. 本報告書は、平成元年度に実施した県営特殊農地保全整備事業（豊留地区）に伴う埋蔵文化財発掘確認調査報告書である。
2. 発掘調査は県の受託事業として松山町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査の実施及び実測は上田義明が行った。
4. 発掘調査の現場写真・遺物写真は上田義明が撮影した。
5. 本書に用いたレベル数値はすべて海拔絶対高である。
6. 本報告書の執筆・編集は上田義明が行った。
7. 発掘調査後の整理作業は松山町歴史民俗資料館で行った。
8. 出土遺物は、報告書作成終了後、松山町歴史民俗資料館で保管し、展示・活用する計画である。

第12図	A地点出土遺物実測図（6）	17
第13図	A地点出土遺物実測図（7）	18
第14図	A地点出土遺物実測図（8）	19
第15図	C地点遺物出土状況	19
第16図	C地点出土遺物実測図	20
第17図	D地点遺物出土状況	20
第18図	D地点出土遺物実測図	21

図版目次

図版1	牧ノ原A遺跡全景	23
図版2	牧ノ原B遺跡全景	23
図版3	大原遺跡全景	24
図版4	発掘作業風景	24
図版5	標準土層	25
図版6	A地点遺物出土状況	25
図版7	C地点遺物出土状況	26
図版8	D地点遺物出土状況	26
図版9	A地点出土遺物（1）	27
図版10	A地点出土遺物（2）	28
図版11	A地点出土遺物（3）	29
図版12	A地点出土遺物（4）	30
図版13	A地点出土遺物（5）	31
図版14	A地点出土遺物（6）	32
図版15	A地点出土遺物（7）	33
図版16	B・C地点出土遺物	34
図版17	C地点出土遺物	35

1 調査の経過

1) 調査に至るまでの経過

鹿児島県農政部（大隅耕地事務所）は、曾於郡松山町新橋豊留工区において特殊農地保全整備事業を計画し、実施計画地区内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化課に照会した。

これをうけて、昭和61年4月、文化課で当該地区の分布調査を実施したところ、工事実施予定区域内に3ヶ所の遺跡（牧ノ原A遺跡・牧ノ原B遺跡・大原遺跡）の存在していることが確認された。この結果に基づき、県農政部農地整備課（大隅耕地事務所）、文化課、松山町教育委員会の間で事業の推進と埋蔵文化財の保護にかかわる協議が行われ、松山町教育委員会が調査主体となって県文化課の指導を受けながら、遺跡の範囲・性格等を把握するための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、鹿児島県農政部（大隅耕地事務所）からの受託事業として、松山町教育委員会が調査主体となり、県文課の協力を得て、平成元年10月16日から平成元年11月23日まで実施した。調査面積は計3,600㎡である。

2) 調査の組織

調査主体者	松山町教育委員会		
調査責任者	松山町教育委員会	教 育 長	加世田 實
調査事務担当者	〃	管 理 課 長	川上 哲郎
	〃	主 査	白坂 泰雄
	〃	主 査	佐野 スミ
	〃	社会教育課長	吉元 俊彦
	〃	主 事	津曲 兼隆
	〃	主 事	上原 登
	〃	主 事	中村 嘉壽
	〃		上田 義明
	〃	社会教育指導員	前田 實廣
	〃	庶 務 係	別納 洋子
調査担当者	松山町教育委員会		上田 義明
	鹿児島県教育委員会	主 事	東 和 幸
調査指導者	鹿児島大学法文学部	教 授	上村 俊雄
	〃	助 手	本田 道輝

なお、調査の企画等において、県教育長文化課長吉井浩一、同課長補佐奥園義則、同主幹立園多賀生、同主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長吉元正幸、同企画助成係長京田秀充の各氏のほか同企画助成係の指導助言を得た。

3) 調査の経過

- 10月16日 (月) 調査開始。調査器具の搬入。発掘調査についての説明。A地点トレンチ設定。
- 10月17日 (火) A地点北西隅2～3層より縄文時代晩期の遺物確認。A地点の調査継続。
- 10月18日 (水) A地点の調査継続。
- 10月19日 (木) A地点の調査継続。B地点調査開始。トレンチ設定。
- 10月20日 (金) A・B地点の調査継続。
- 10月21日 (土) B地点の調査継続。
- 10月24日 (火) B地点の調査継続。C地点調査開始。トレンチ設定。
- 10月25日 (水) 文化課主事東和幸氏現地指導。C地点調査継続。
- 10月26日 (木) 東和幸氏現地指導。D地点調査開始。トレンチ設定。A地点重機投入。
- 10月27日 (金) 東和幸氏現地指導。A地点の調査継続。D地点2層に古墳時代の遺物確認。
大隅耕地事務所、貴島氏来訪。3者協議。
- 10月31日 (火) B地点重機投入。A地点の調査継続。A地点西側隅2～3層より縄文時代晩期の
遺物確認。
- 11月1日 (水) C地点重機投入。B地点の調査継続。
- 11月2日 (木) C地点2～3層より縄文時代の遺物確認。
- 11月3日 (金) C地点の調査継続。
- 11月6日 (月) C地点の調査継続。
- 11月7日 (火) A地点記録保存のため重機により拡張。グリッド設定。C地点の調査継続。
- 11月8日 (水) A地点の調査継続。2～3層より縄文晩期時代の遺物確認。
- 11月9日 (木) A地点の調査継続。C地点記録保存のため重機により拡張。
- 11月10日 (金) A・C地点調査継続。
- 11月14日 (火) A地点調査継続。D地点遺跡範囲確認のため拡張。
- 11月15日 (水) A・D地点調査継続。各地点実測開始。
- 11月16日 (木) A・D地点調査継続。各地点実測継続。
- 11月17日 (金) A地点調査継続。各地点実測継続。
- 11月18日 (土) A地点調査継続。各地点実測継続。
- 11月19日 (日) A地点調査継続。各地点実測継続。
- 11月20日 (月) A地点調査継続。各地点実測継続。
- 11月21日 (火) A地点グリッドC-3区下層確認のため1m×2mの試掘を行う。
- 11月22日 (水) A地点グリッドC-3区下層確認終了。A地点調査終了。
- 11月23日 (木) 全調査区の記録完了。全調査区の調査終了。調査機材の納入。



第1図 牧ノ原A・B遺跡 大原遺跡トレンチ配置図

2 調査の概要

1) 調査の概要

調査は分布調査によって遺跡の確認された部分、立地条件等から遺跡の可能性の高い部分を中心に行ったが、整備事業計画区域が、7ヘクタールにおよび、東西に長く伸びるため、地区内を4地区に分けその地区ごと（A～Dの名称）に調査を行った。各地点の調査は1m×2mの試験構を基本とし、必要に応じて重機を使い遺物の有無についての把握に努めた。

その結果、A地点においては、縄文時代晩期の土器・石器が出土し、D地点では歴史時代の土器、墨書土器などが出土した。

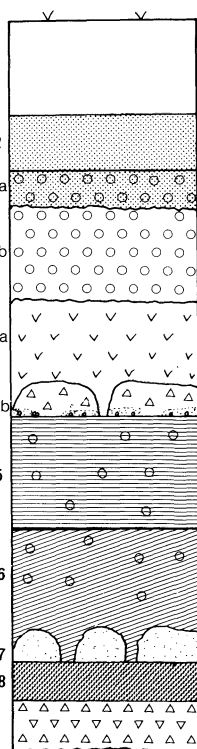
2) 標準土層

1層 暗褐色耕作土。

2層 黒色土層。黒色微粒の植壤土で、やや粘質を帯びる。

3 a 層 暗褐色腐植火山灰土層。

3 b 層 黄褐色軽石質火山灰土層。



4 a 層 褐色腐食火山灰土層。直径1mm前後の黄橙色軽石を多く含む。

4 b 層（アカホヤ）層の二次堆積層とおもわれる。

4 b 層 明褐色火山灰土層。上位のフカフカした新鮮な火山灰と下位の砂粒、火山豆石を含む薄層理層とに区分できる。安定した層をなさず5層下部にブロック状に点在している場所も見られる。鬼界カルデラ起源のアカホヤ層に対比できる。

5層 灰褐色火山灰土層。直径1mm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含む。

6層 黒褐色腐食土層。直径5mm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含み、割合に硬くしまっている。5層との境は不明瞭で漸移している。

7層 黄褐色火山灰土層。割合に硬くしまった粘土化した火山灰土で、6層下部にブロック状にはいる。

8層 明褐色粘質土層。きわめて砂粒の粘質を帯びたソフトローム層である。

第2図 標準土層図

遺物 番号	層	胎 土	焼成	色 調		内面調整	文様その他
				外 面	内 面		
1	2	石英・長石	良好	茶褐色	茶褐色	条 痕	貝殻条痕
2	2	石英・細砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	条 痕	貝殻条痕
3	2	石英	良好	暗褐色	茶褐色	ナ デ	浅鉢
4	2	石英・細砂粒	良好	暗褐色	茶褐色	ケンマ	外面もケンマ
5	2	石英・細砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ケンマ	外面もケンマ
6	2	石英・細砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	外面に二条の沈線を施す
7	2	石英・長石・細砂粒	良好	黄褐色	茶褐色	ナ デ	外面に三条の凹線を施す
8	2	石英・長石・砂粒	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	工具ナデ	外面はケンマ
9	2	石英・長石・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	工具ナデ	外面はケンマ
10	2	石英・長石	良好	茶褐色	褐色	工具ナデ	
11	2	石英・長石	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
12	2	石英・長石	良好	暗褐色	褐色	ケンマ	外面もケンマ
13	2	長石	良好	茶褐色	暗褐色	ケンマ	外面もケンマ
14	2	石英・砂粒	良好	褐色	暗褐色	ナデ	
15	2	石英・砂粒	良好	褐色	褐色	ケンマ	外面もケンマ
16	2	石英	良好	暗茶褐色	暗褐色	ケンマ	外面もケンマ
17	2	石英	良好	暗褐色	暗褐色	ケンマ	外面もケンマ
18	2	石英・長石	良好	暗褐色	褐色	ケンマ	外面もケンマ
19	2	石英・長石	良好	茶褐色	暗褐色	ケンマ	外面もケンマ
20	2	石英	良好	暗茶褐色	暗褐色	ケンマ	外面もケンマ
21	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	褐色	ケンマ	外面もケンマ
22	2	石英	良好	褐色	暗褐色	ナ デ	
23	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
24	2	石英	良好	暗茶褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
25	2	石英・砂粒	良好	茶褐色	褐色	ナ デ	
26	2	石英・長石	良好	暗褐色	暗褐色	ケンマ	外面もケンマ
27	2	石英	良好	暗褐色	暗褐色	ケンマ	
28	2	石英・砂粒	良好	褐色	暗褐色	ナ デ	
29	2	石英	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ

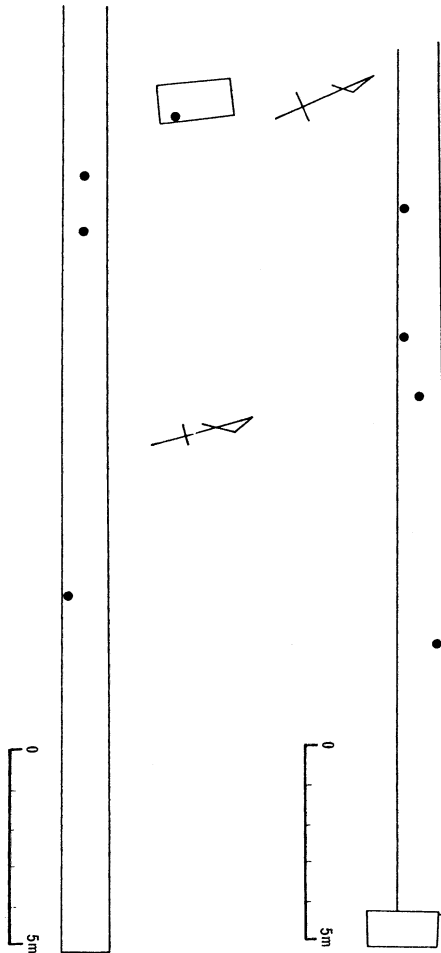
遺物 番号	層	胎 土	焼成	色 調		内面調整	文様その他
				外 面	内 面		
30	2	石英	良好	茶褐色	褐色	ナ デ	外面はケンマ
31	2	石英・砂粒	良好	褐色	褐色	ナ デ	
32	2	石英・砂粒	良好	褐色	暗褐色	ナ デ	
33	2	石英・砂粒	良好	黒褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
34	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	
35	2	石英・砂粒	良好	褐色	褐色	ナ デ	
36	2	石英・砂粒	良好	褐色	褐色	ナ デ	
37	2	石英	良好	暗褐色	褐色	磨滅のため不明	
38	2	石英・長石	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	
39	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	
40	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	磨滅のため不明	外面はケンマ
41	2	石英・長石	良好	茶褐色	茶褐色	ナ デ	
42	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
43	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
44	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
45	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナ デ	
46	2	石英・長石	良好	褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
47	2	石英・砂粒	良好	茶褐色	暗褐色	ナ デ	
48	2	石英	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	
49	2	石英	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	
50	2	石英・砂粒	良好	褐色	暗褐色	ナ デ	
51	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ケンマ	外面もケンマ
52	2	石英・砂粒	良好	黒褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
53	2	石英・長石・砂粒	良好	暗褐色	茶褐色	ナ デ	
54	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	
55	2	石英・砂粒	良好	茶褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
56	2	石英・砂粒	良好	褐色	暗褐色	ナ デ	
57	2	石英・砂粒	良好	茶褐色	茶褐色	ナ デ	
58	2	石英・砂粒	良好	褐色	茶褐色	ナ デ	外面はケンマ

遺物 番号	層	胎 土	焼成	色 調		内面調整	文様その他
				外 面	内 面		
59	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
60	2	石英・砂粒	良好	黒褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
61	2	石英・砂粒	良好	褐色	暗褐色	ナ デ	
62	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
63	2	石英・長石・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ケンマ	外面もケンマ
64	2	石英・長石・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ケンマ	外面もケンマ
65	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ケンマ	外面もケンマ
66	2	石英・砂粒	良好	褐色	褐色	ナ デ	
67	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
68	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
69	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナ デ	外面はケンマ
70	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
71	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	
72	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	
73	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	
74	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
75	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
76	2	金ウンモ・砂粒	良好	褐色	褐色	ナ デ	
77	2	石英・長石・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	外面はケンマ
78	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	
79	2	石英・砂粒	良好	褐色	暗褐色	ナ デ	
80	2	石英・砂粒	良好	暗褐色		磨滅のため不明	
81	2	石英・砂粒	良好	褐色	暗褐色	ナ デ	
82	2	石英・砂粒	良好	茶褐色		磨滅のため不明	
83	2	石英・砂粒	良好	褐色	暗褐色	ナ デ	
84	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	
85	2	石英・砂粒	良好	褐色	暗褐色	ナ デ	
86	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナ デ	
87	2	石英・砂粒	良好	茶褐色	褐色	ナ デ	外面はケズリ

遺物 番号	層	胎 土	焼成	色 調		内面調整	文 様 そ の 他
				外 面	内 面		
88	2	石英・砂粒	良好	茶 褐 色	褐 色	ナ デ	
89	2	石英・砂粒	良好	茶 褐 色	褐 色	ナ デ	

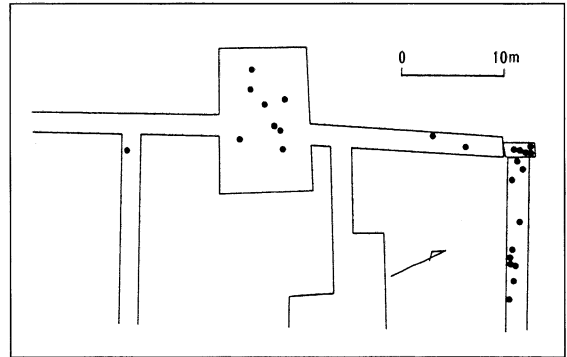
3) 各地点の調査

1, A地点の調査



第3図 A地点遺物
出土状況(1)

第4図 A地点遺物
出土状況(2)

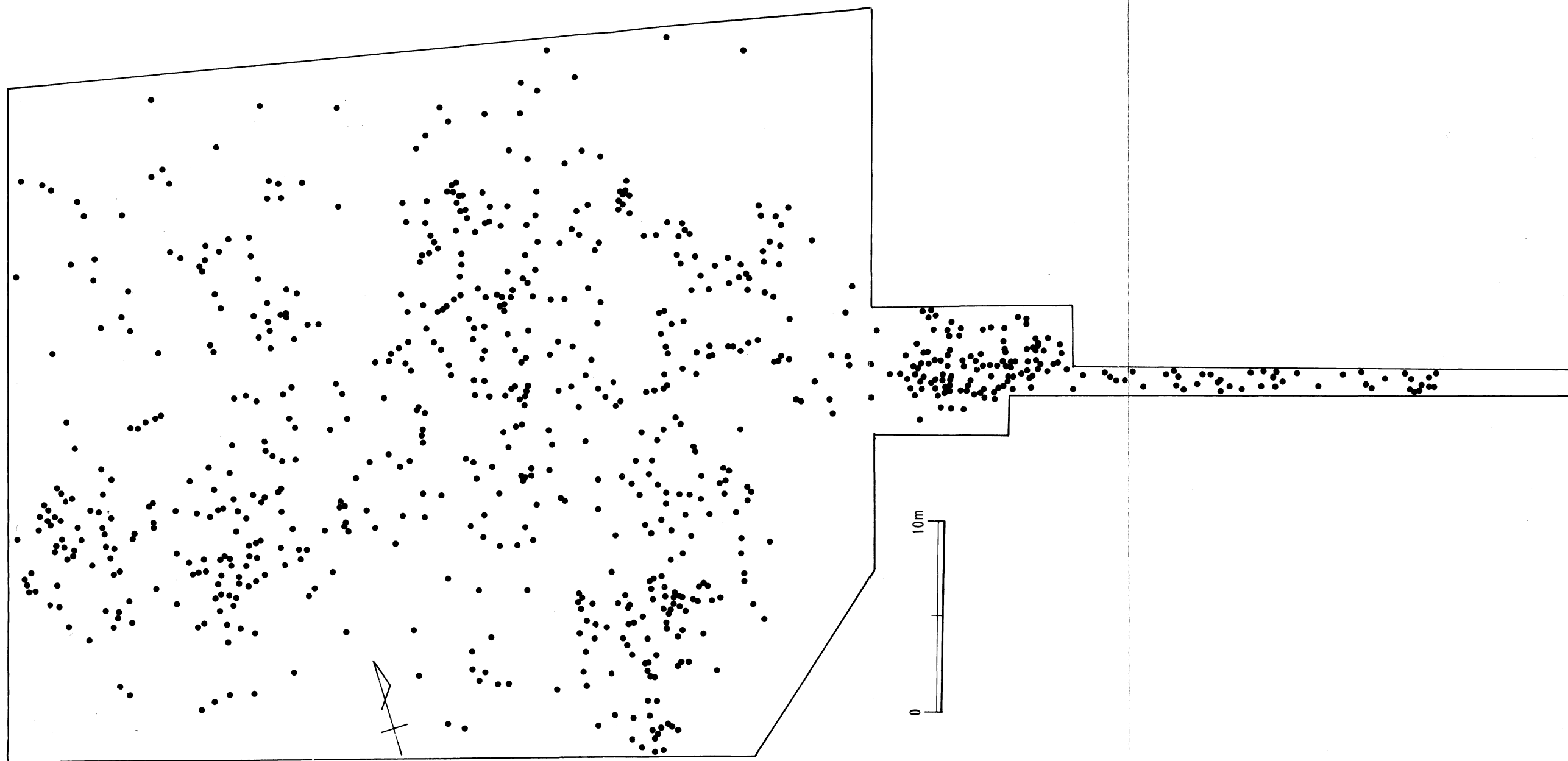


第5図 A地点遺物出土状況(3)

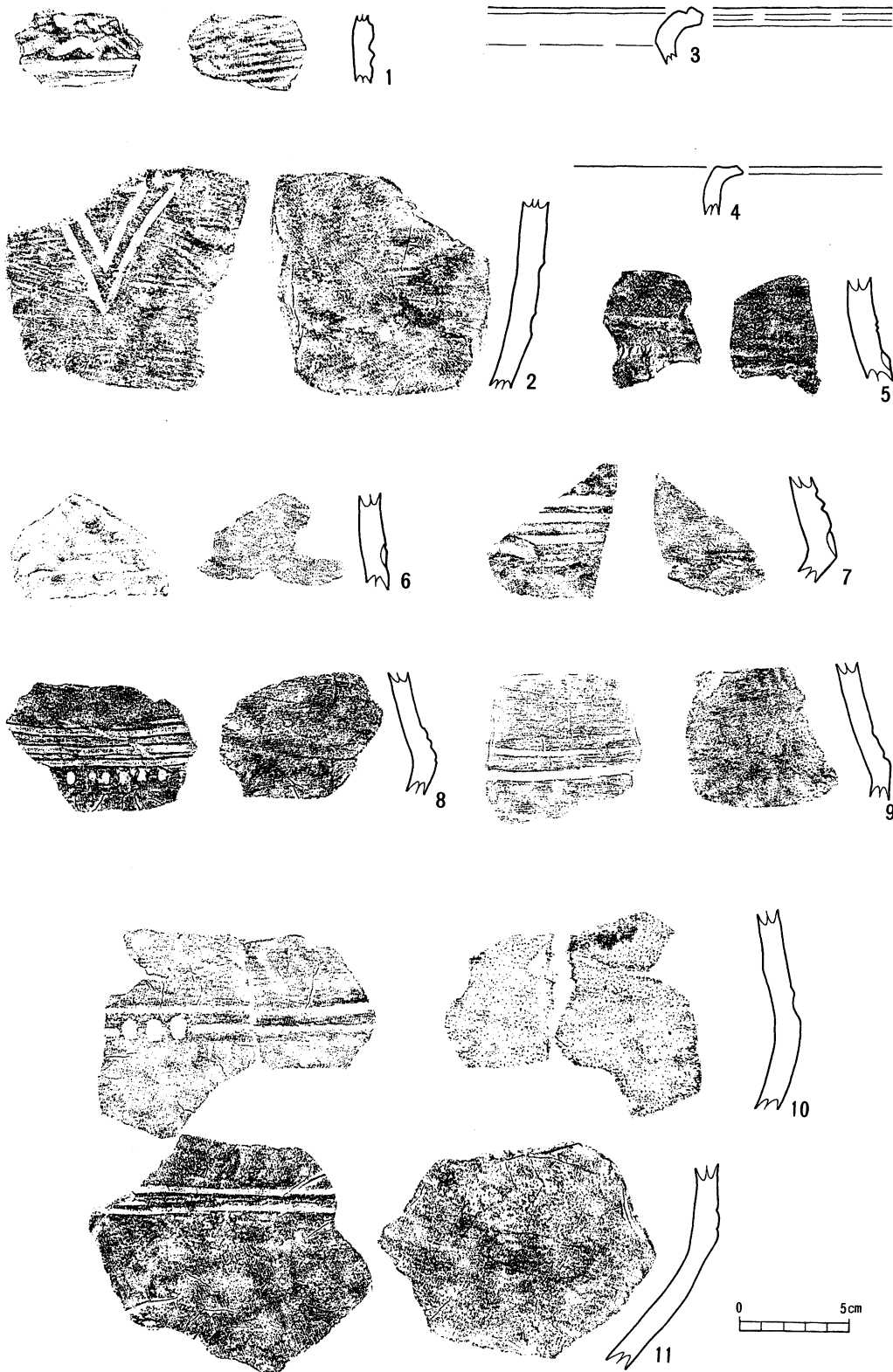
A地点は2×2のトレンチを10ヶ所設定し必要に応じ、重機を使って溝状に拡張し調査をした。

その結果、一部は天地返しにより攪乱を受けていたが、西側において3 a層より縄文時代晩期の遺物が出土した。一部設計変更による保存が困難なため、重機による拡張を行い記録保存を行った。

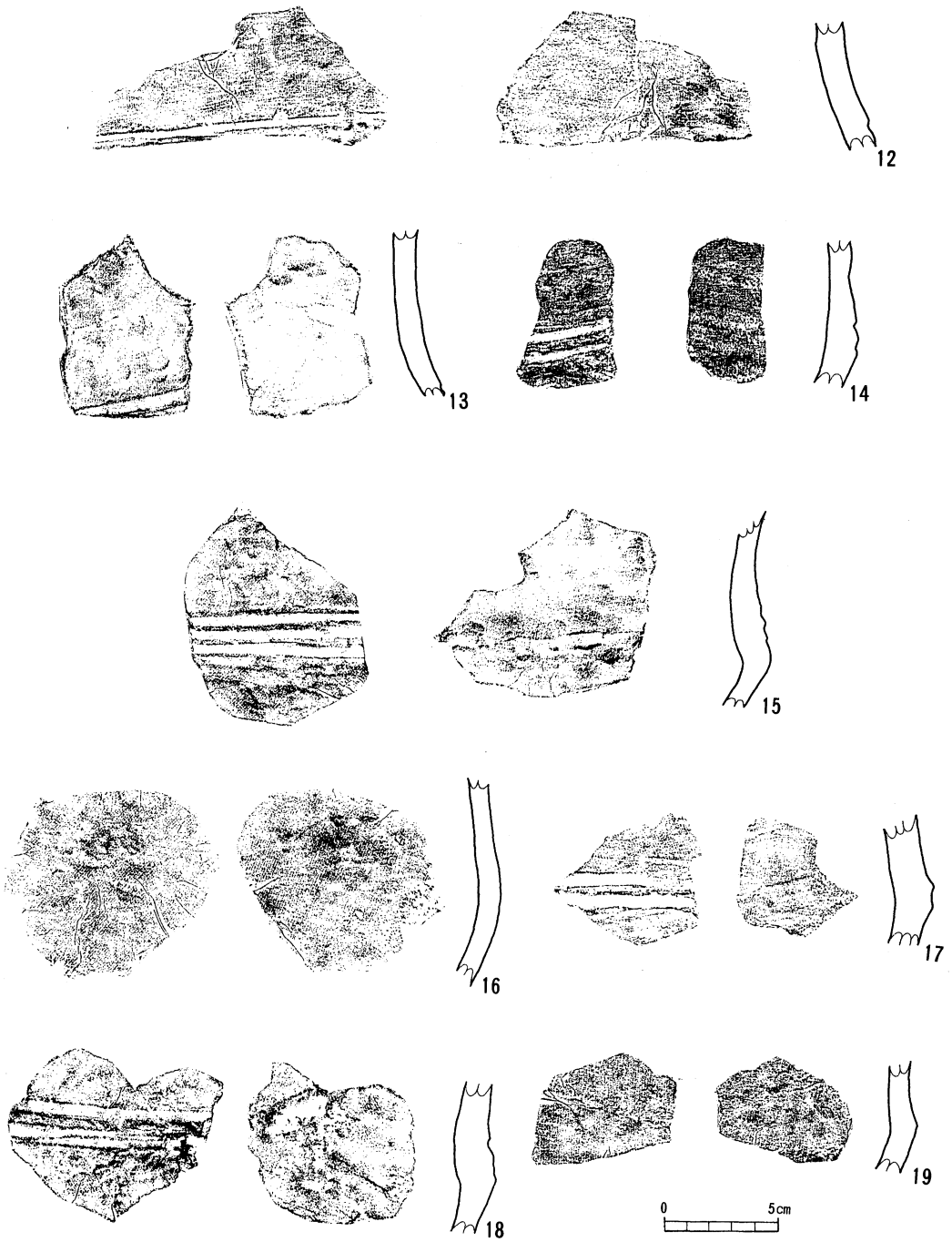
出土遺物はほとんどが土器で、縄文晩期を中心に一部、中期、後期の土器も出土した。土器は大まかに分けて4タイプに分類され、波状の凹線を横位に施文し、貝殻による調整を施すもの(1)、胴部がやや張り、外面に幾何学文的凹線を施すもの(2)、口縁部先端が外面に張出し、頸部が「くの字型」に屈曲しているもの(3, 4)、口縁部先端が肥厚し、頸部が「くの字型」に屈曲しないもの(5~78)である。その他に弥生時代の遺物が出土した(87, 89)。



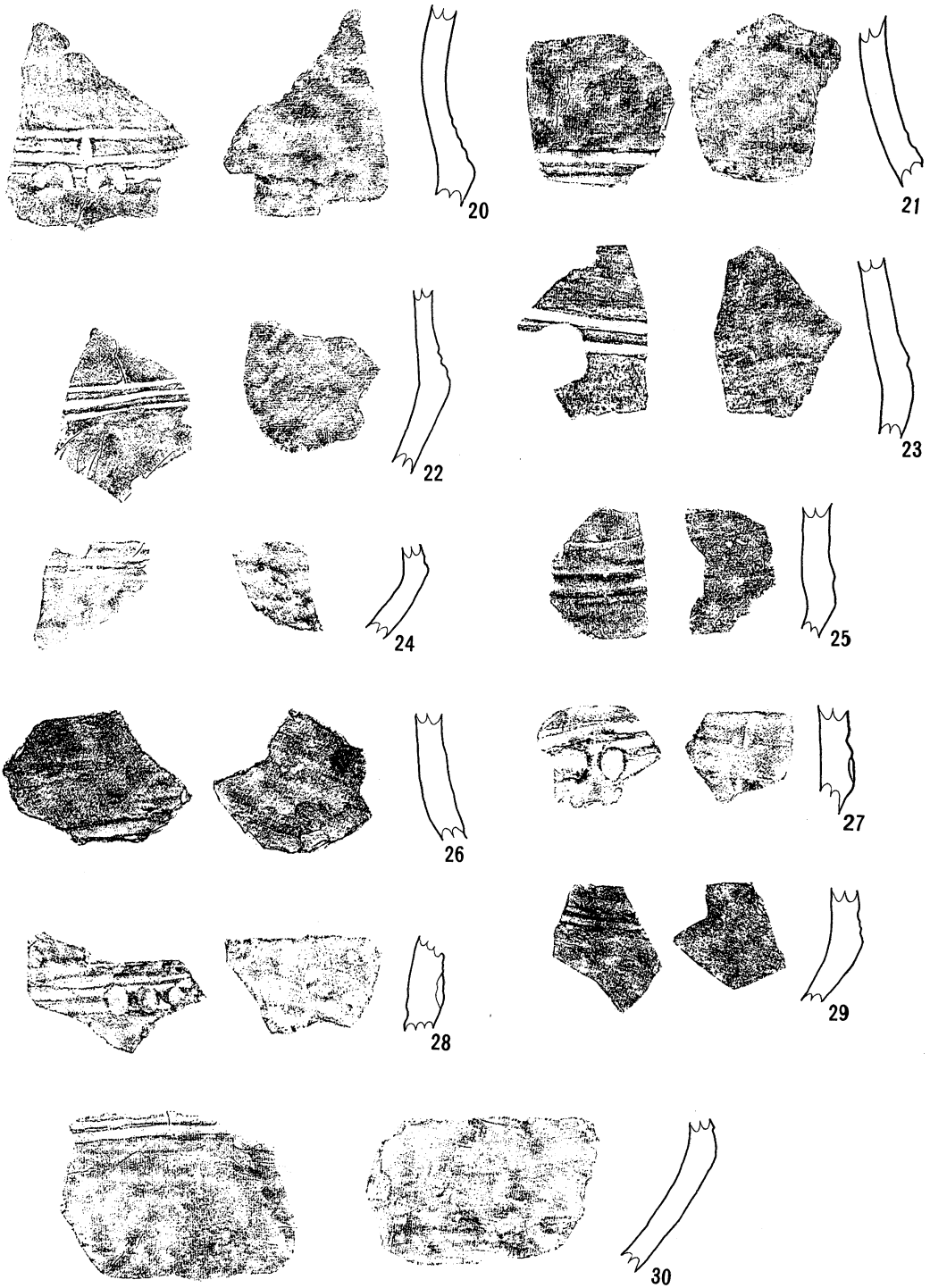
第6図 A地点遺物出土状況(4)



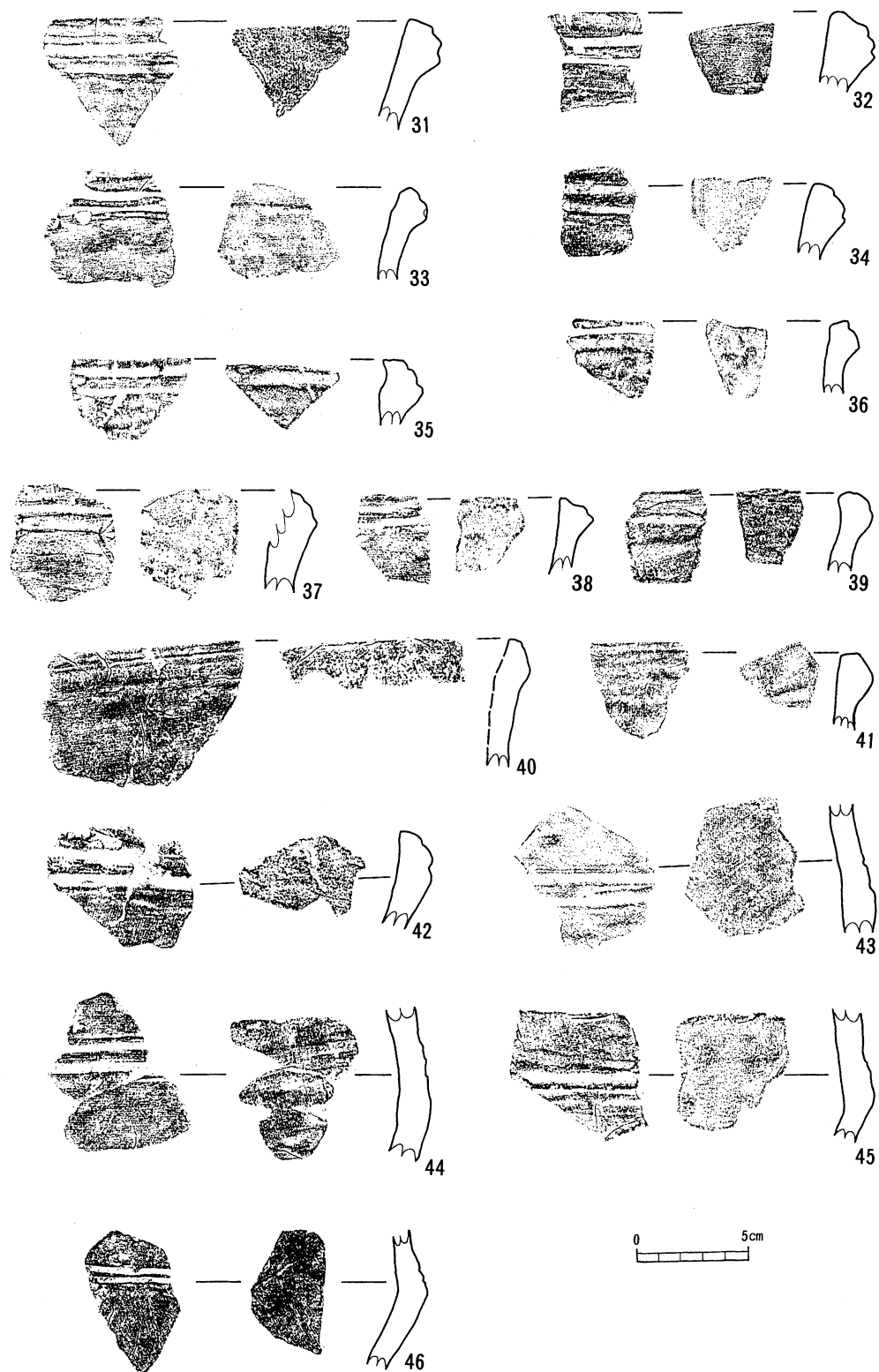
第7图 A地点出土遺物実測図(1)



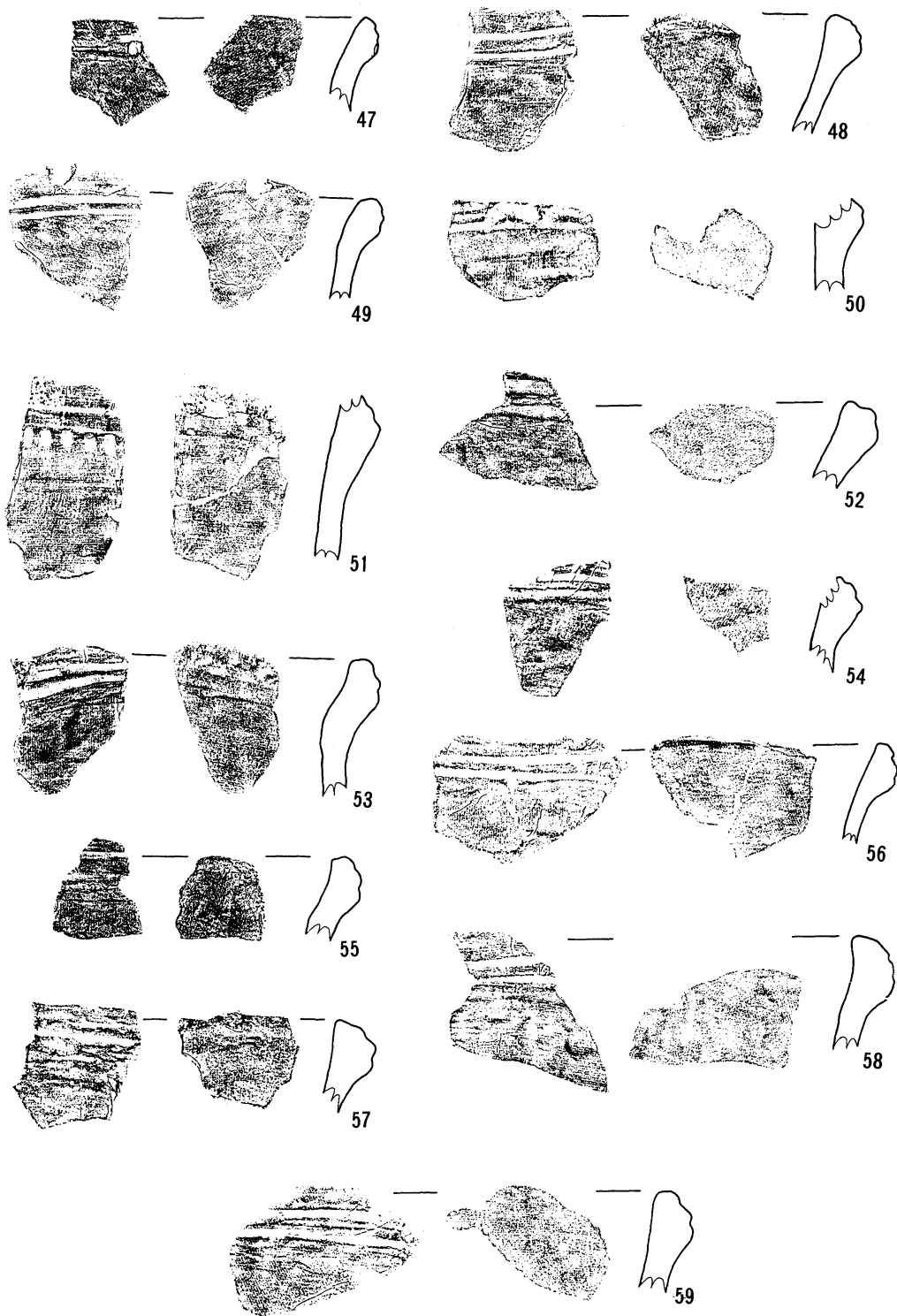
第8图 A地点出土遺物実測図(2)



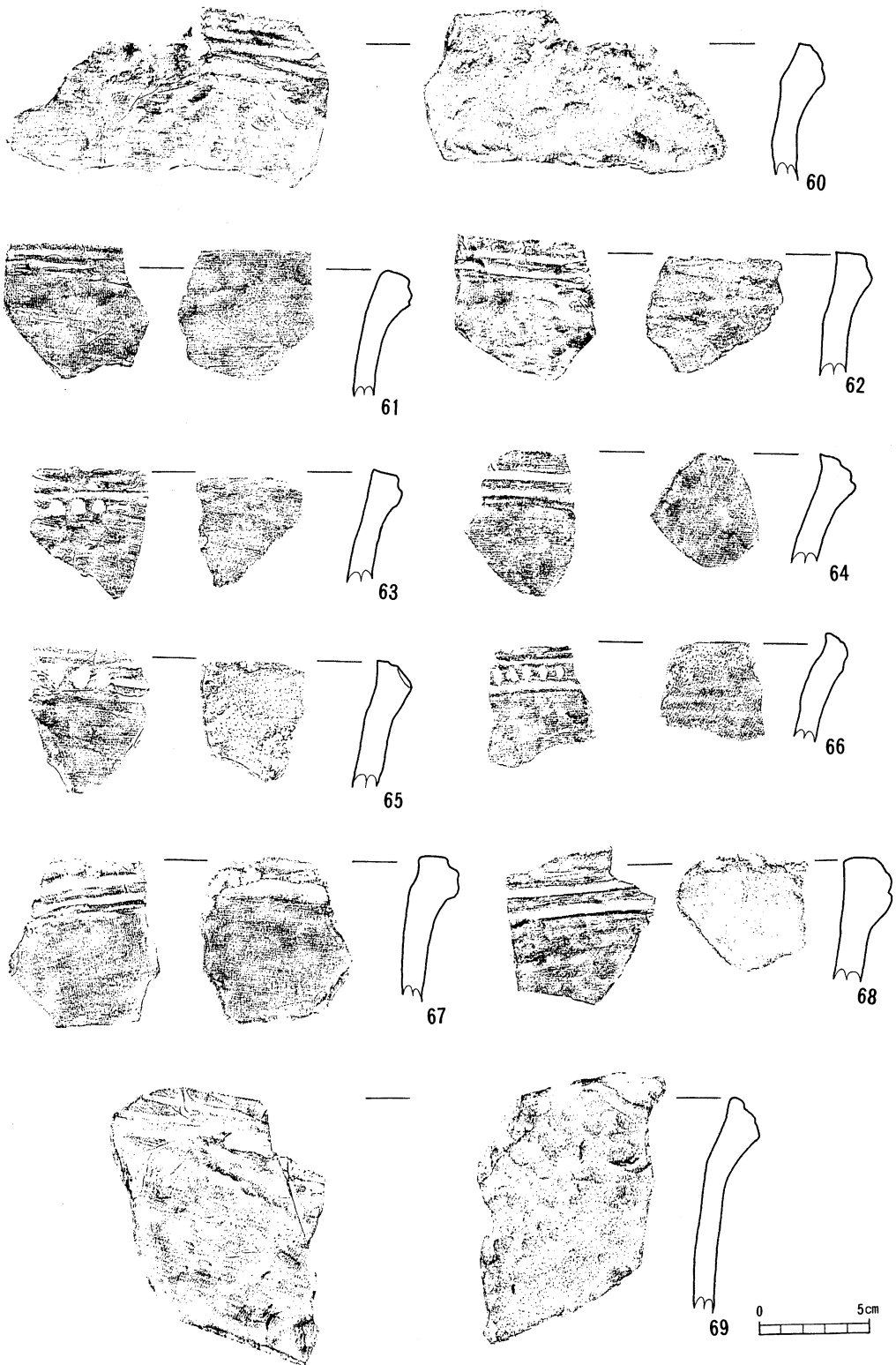
第9图 A地点出土遺物実測図(3)



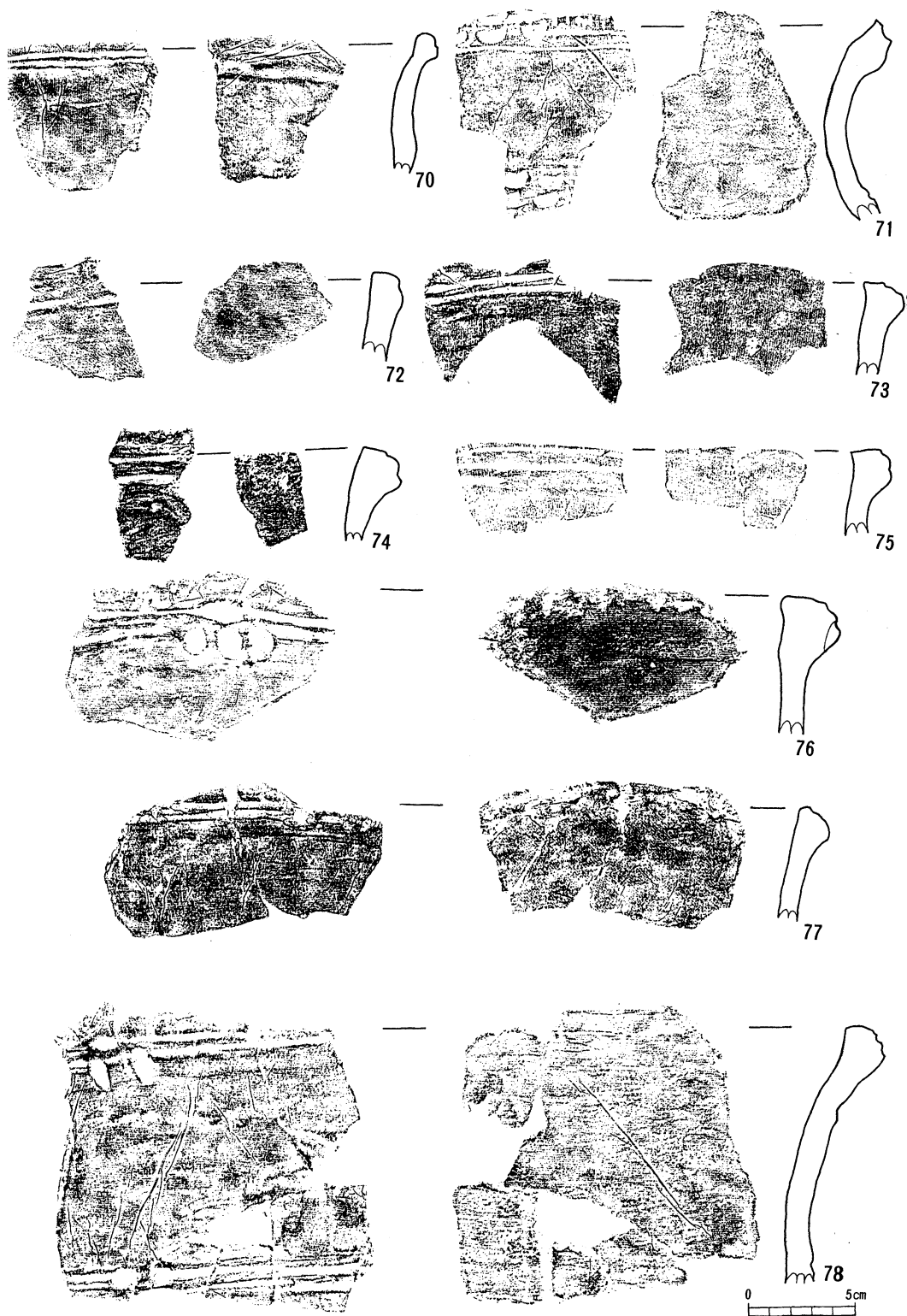
第10图 A地点出土遺物実測図(4)



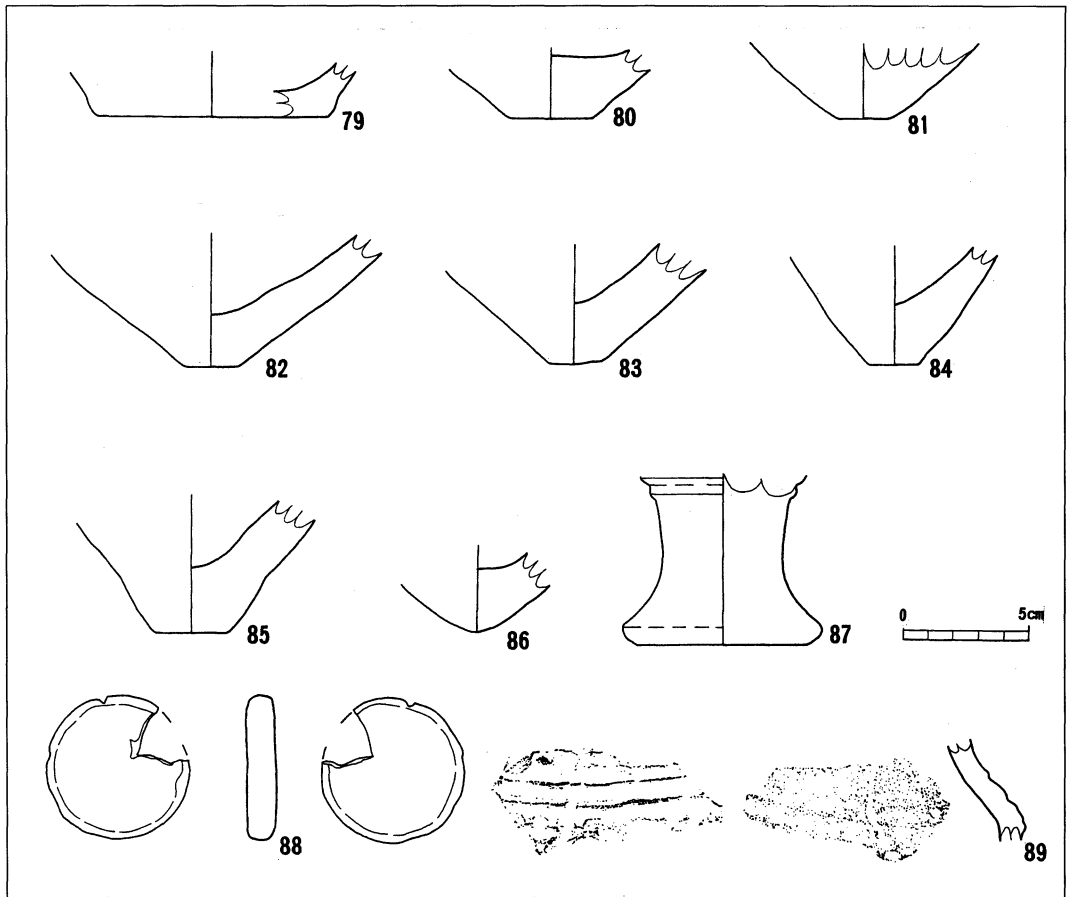
第11图 A地点出土遺物実測図(5)



第12図 A地点出土遺物実測図(6)

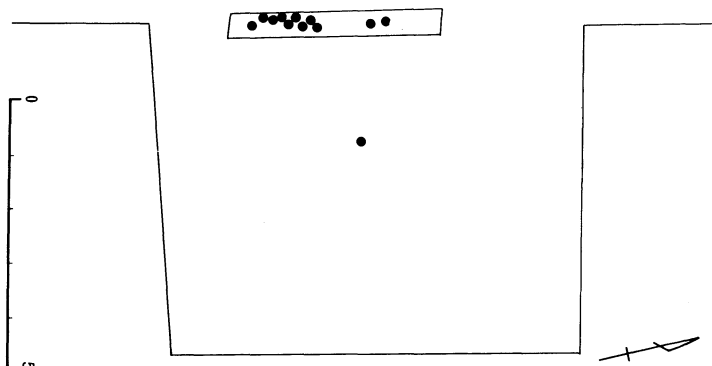


第13图 A地点出土遺物実測図(7)



第14図 A地点出土遺物実測図(8)

2, C地点の調査

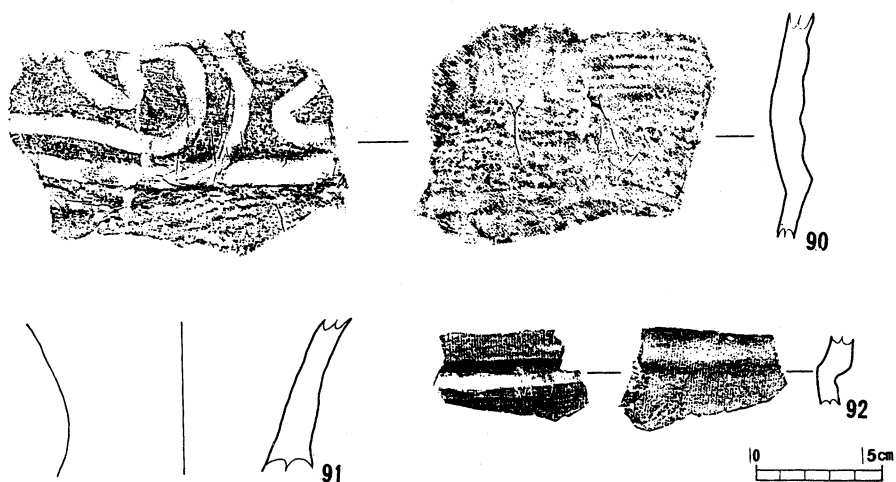


第15図 C地点遺物出土状況

牧ノ原A遺跡と牧ノ原B遺跡のほぼ中間に位置し、やや南西に傾斜する地形である。

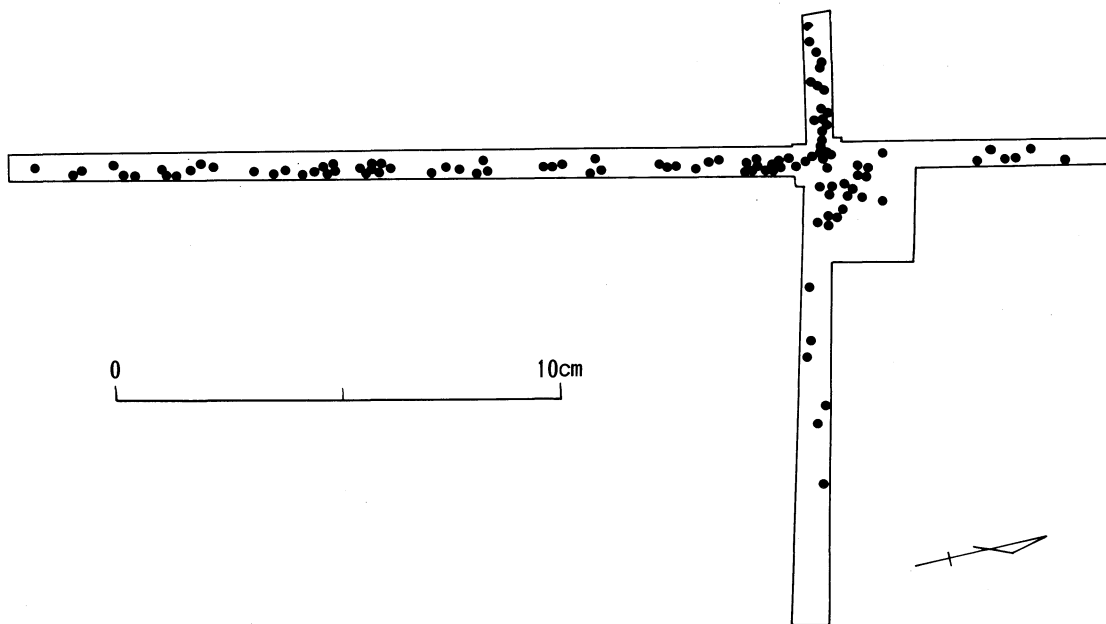
調査の結果4 a層より上は既に削平を受けており、遺物包含層は確認できなかった。溝状遺構が検出されたが、埋土に4 a層がブロック状に混入しており、かなり新しいものと思われる。

しかし、その中から、90~92の土器が検出された。おそらくこの地点は、削平を受ける前は縄文後期相当の遺物包含層が存在したものと思われる。

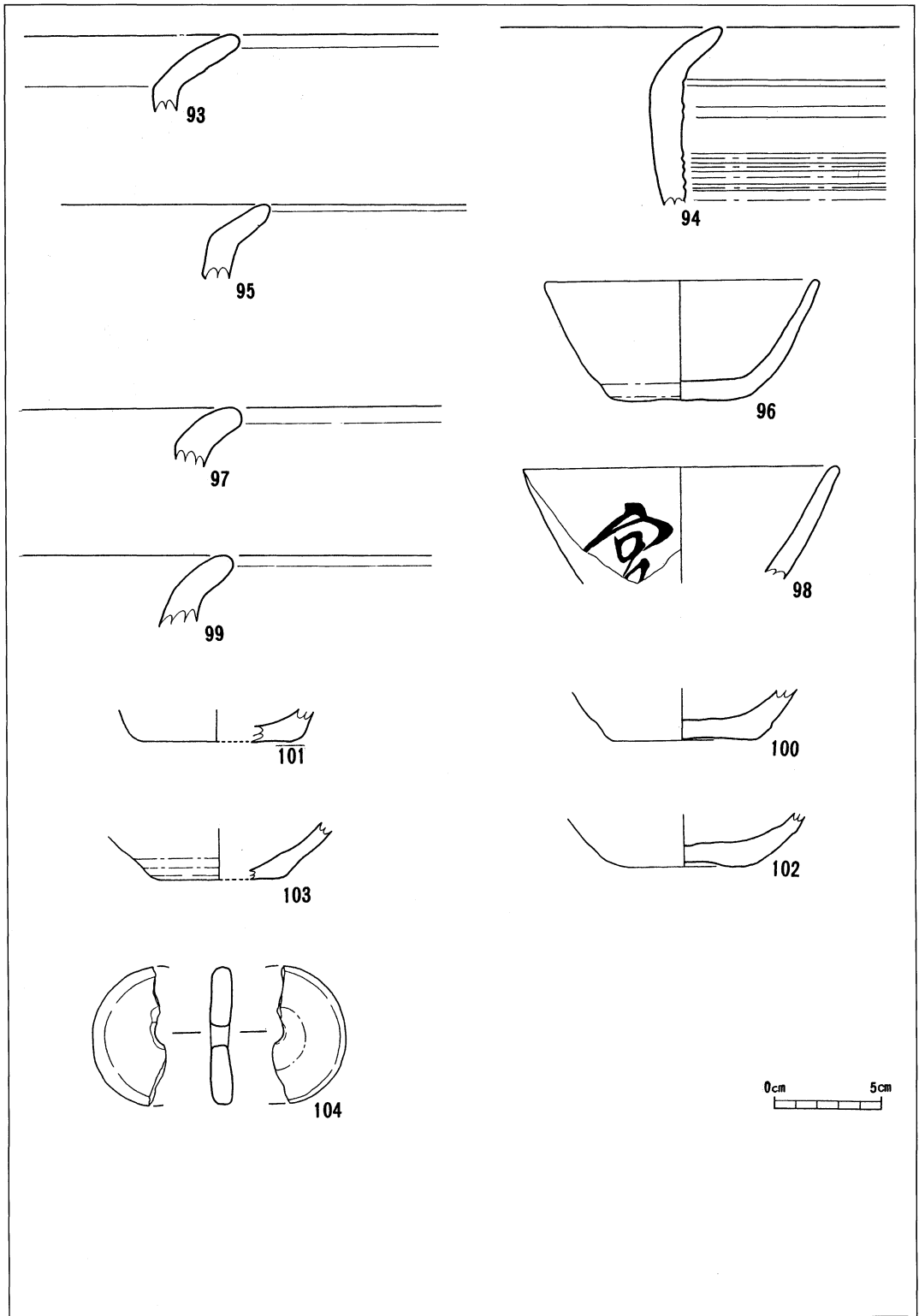


第16図 C地点出土遺物実測図

遺物 番号	層	胎 土	焼成	色 調		内面調整	文様その他
				外 面	内 面		
90	2	石英・金ウンモ	良好	褐 色	褐 色	ナ デ	
91	2	石英・金ウンモ	良好	褐 色	暗 褐 色	ナ デ	
92	2	長石・微砂粒	良好	暗 褐 色	褐 色	ナ デ	



第17図 D地点遺物出土状況



第18图 D地点出土遺物実測図

3, D地点の調査

調査区域の西端に位置し、牧ノ原B遺跡のほぼ中心に位置する。遺跡の南西は層が厚く、残りが良かった。その地点を中心に2層より遺物が出土した。ほとんどが土師器などであったが、墨書土器(98)やフイゴの羽口(104)も出土した。

遺物 番号	層	胎 土	焼成	色 調		内面調整	文様その他
				外 面	内 面		
93	2	石英・砂粒	良好	茶褐色	茶褐色	ナ デ	
94	2	石英・砂粒	良好	暗褐色	褐色	ケズリ	
95	2	石英・砂粒	良好	茶褐色	茶褐色	ナ デ	
96	2	長石・微砂粒	良好	褐色	褐色	ナ デ	
97	2	石英・砂粒	良好	茶褐色	褐色	ナ デ	
98	2	細砂粒・微砂粒	良好	褐色	黒色	ナ デ	墨書土器
99	2	砂粒・微砂粒	良好	褐色	褐色	ナ デ	
100	2	細砂粒・微砂粒	良好	褐色	褐色	ナ デ	
101	2	細砂粒・微砂粒	良好	褐色	褐色	ナ デ	
102	2	細砂粒・微砂粒	良好	褐色	赤褐色	ナ デ	
103	2	細砂粒・微砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナ デ	
104	2	砂粒・微砂粒	良好	褐色	褐色	ナ デ	

3 まとめ

A地点

A地点からは、縄文時代の遺物と弥生時代の遺物が出土した。縄文時代の遺物では、4タイプに分類できる。1と2の土器は紋様形態等から他の土器とは時期が異なると思われる。さらに1と2では断面形態が異なり、2の土器が他の土器と断面形態がより近いいため、1の土器が時的にさかのぼるものと思われる。3, 4の土器と5~78の土器は器種の違いで、時期差ではないと思われる。また5~78のタイプは器壁が全体的に厚く、口縁部先端が肥厚し、同部において張り出す器形であるため、御領式の時期に相当するものと思われる。弥生時代の遺物では弥生中期のものと思われる脚台等が出土している。また縄文時代晩期相当と思われる土製加工品も出土している。

C地点

90, 91は金ウンモが多数混入しており、同一固体と思われる。紋様や断面形態や器面の調整に貝殻を使う点などから、縄文時代後期に相当するものと思われる。

D地点

D地点からは土師器の碗や甕が出土したが、その中に墨書土器やフイゴの羽口と思われるものも出土した。98は内面色調が黒色で、外面に「宮」とよめる文字を施文した墨書土器である。文字の部分全体が残っていないので「宮」という文字だと断定はできないがその可能性が高い。松山町では墨書土器とフイゴの羽口は今までに出土例がないため、製鉄あるいは何らかの施設であった可能性は考えられるが断定はできない。

出土遺物から見るとこの遺跡は歴史時代の遺跡と思われる。



図版1 牧ノ原A遺跡全景



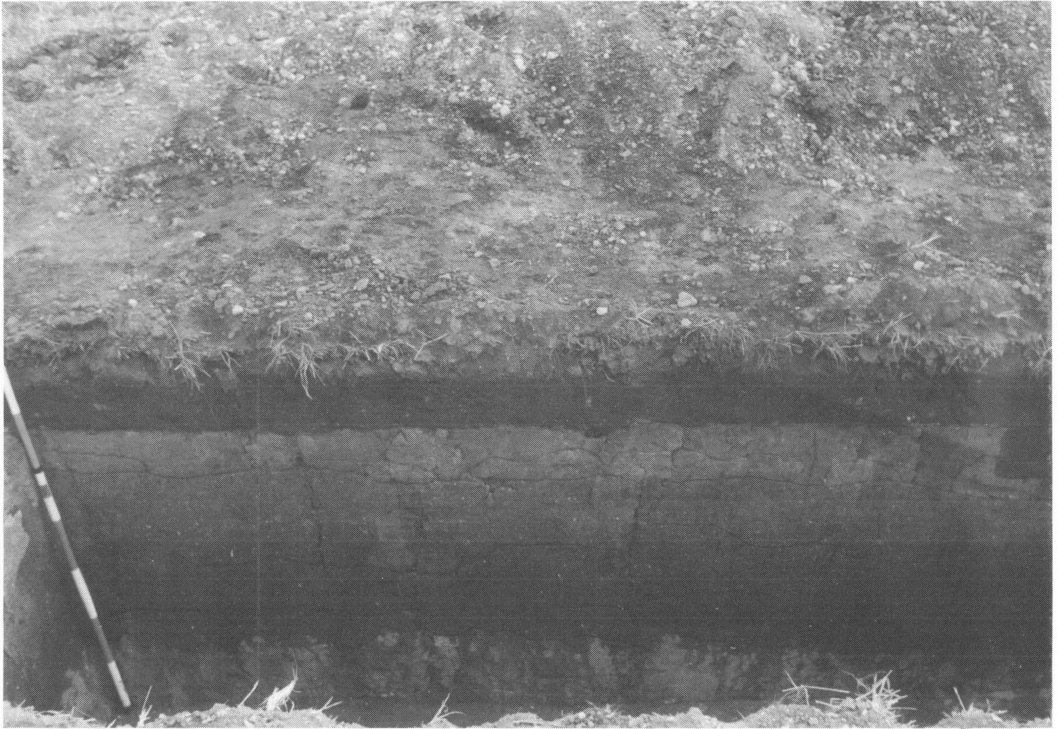
図版2 牧ノ原B遺跡全景



図版3 大原遺跡全景



図版4 発掘作業風景



図版5 標準土層



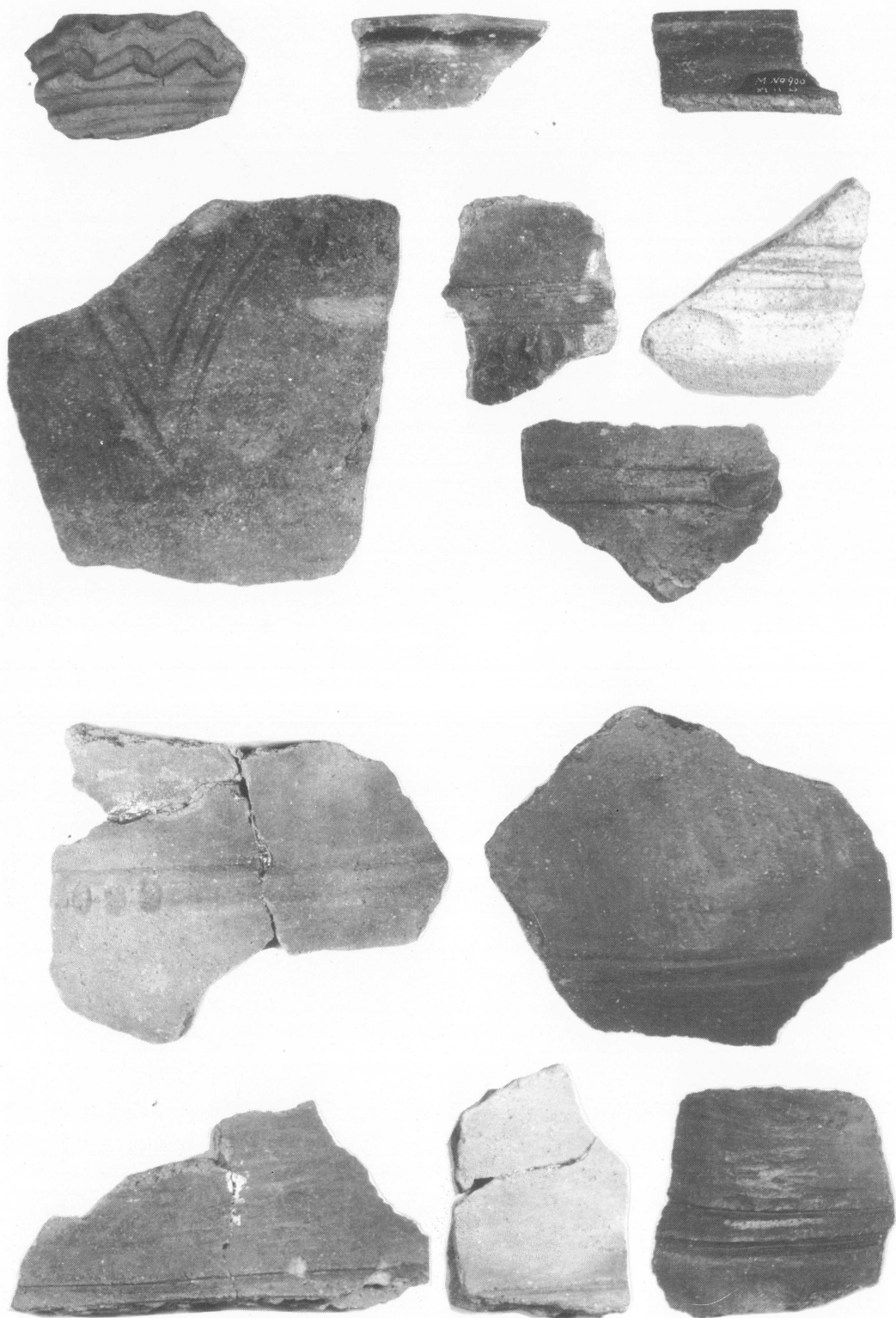
図版6 A地点遺物出土状況



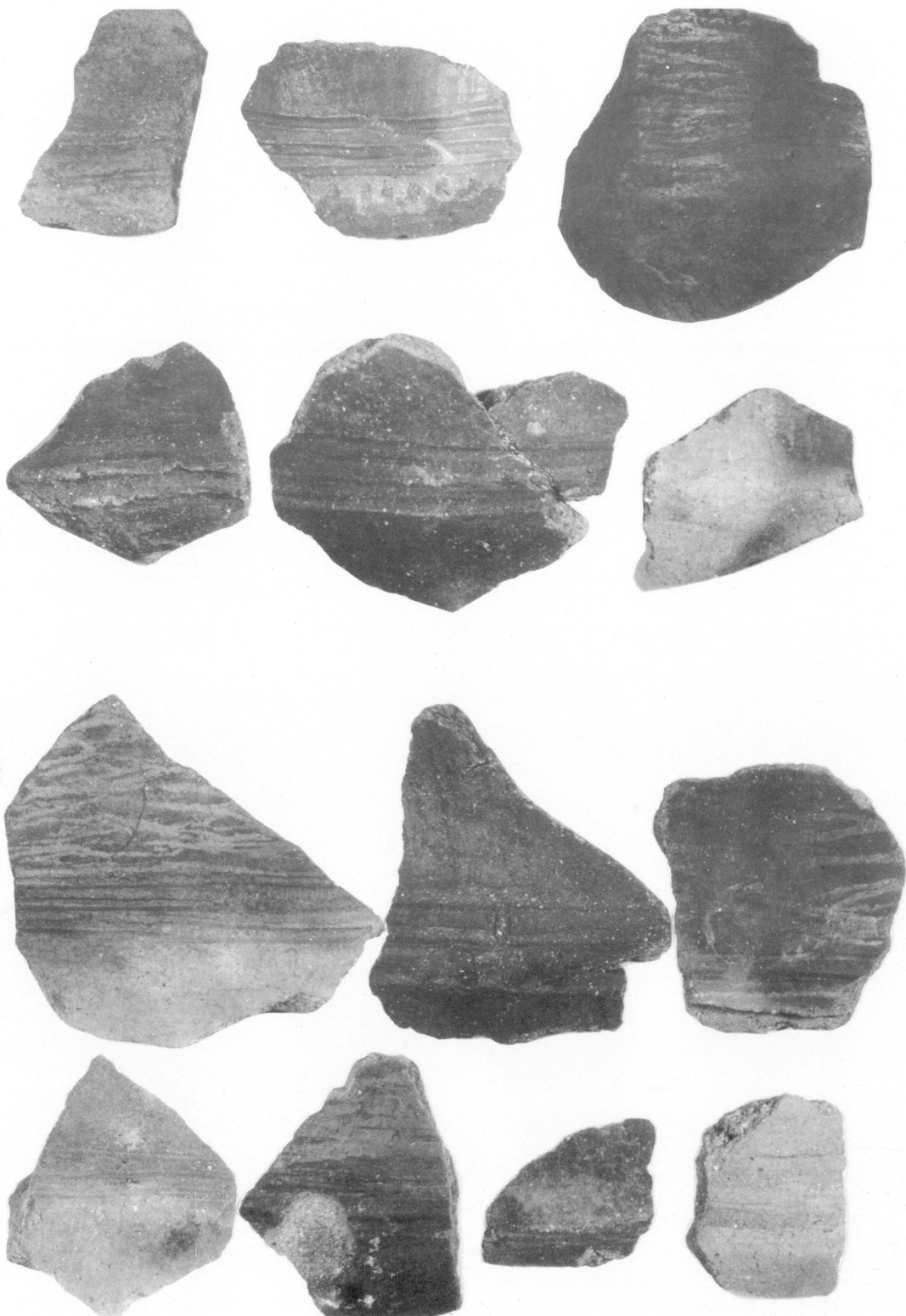
图版 7 C地点遺物出土狀況



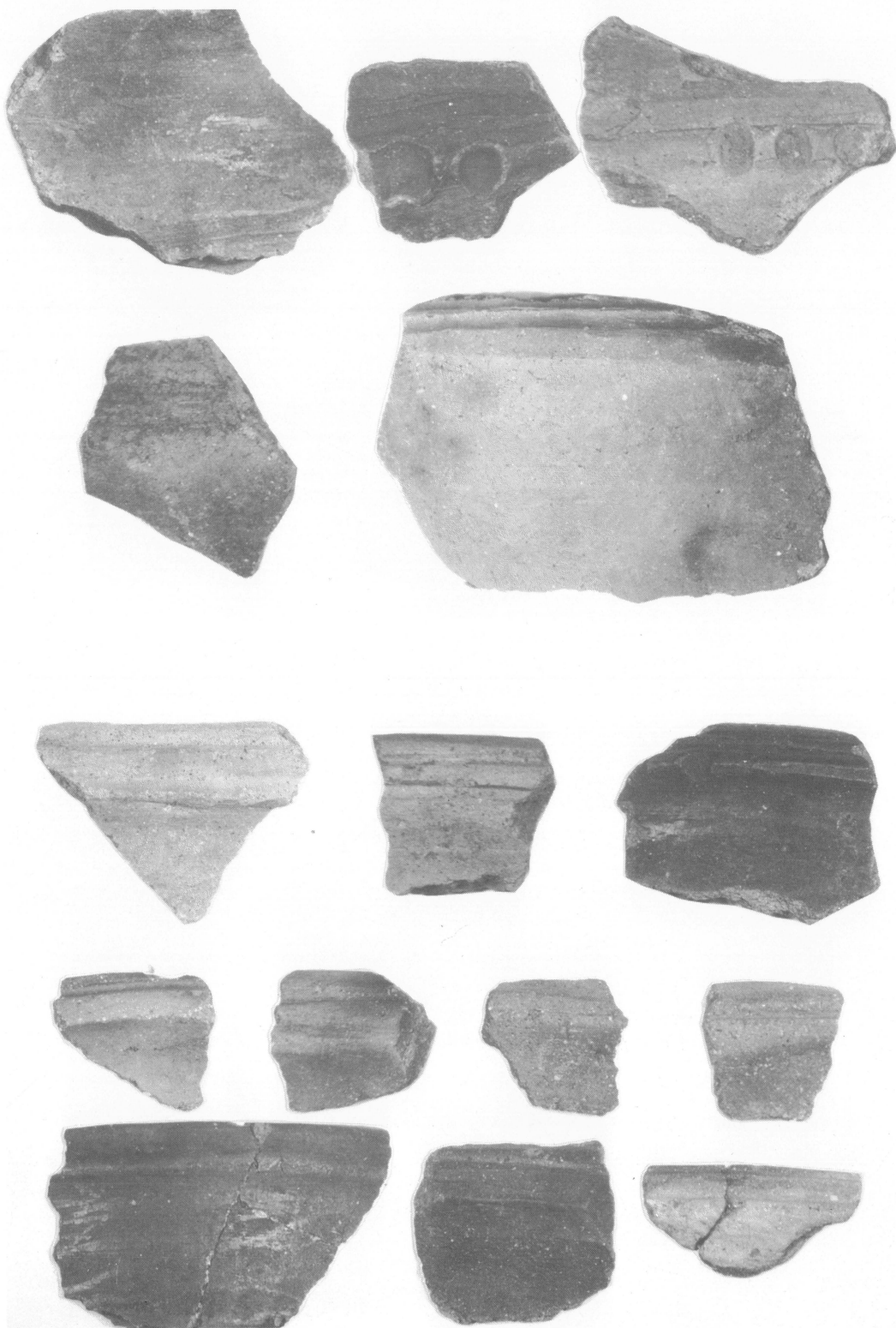
图版 8 D地点遺物出土狀況



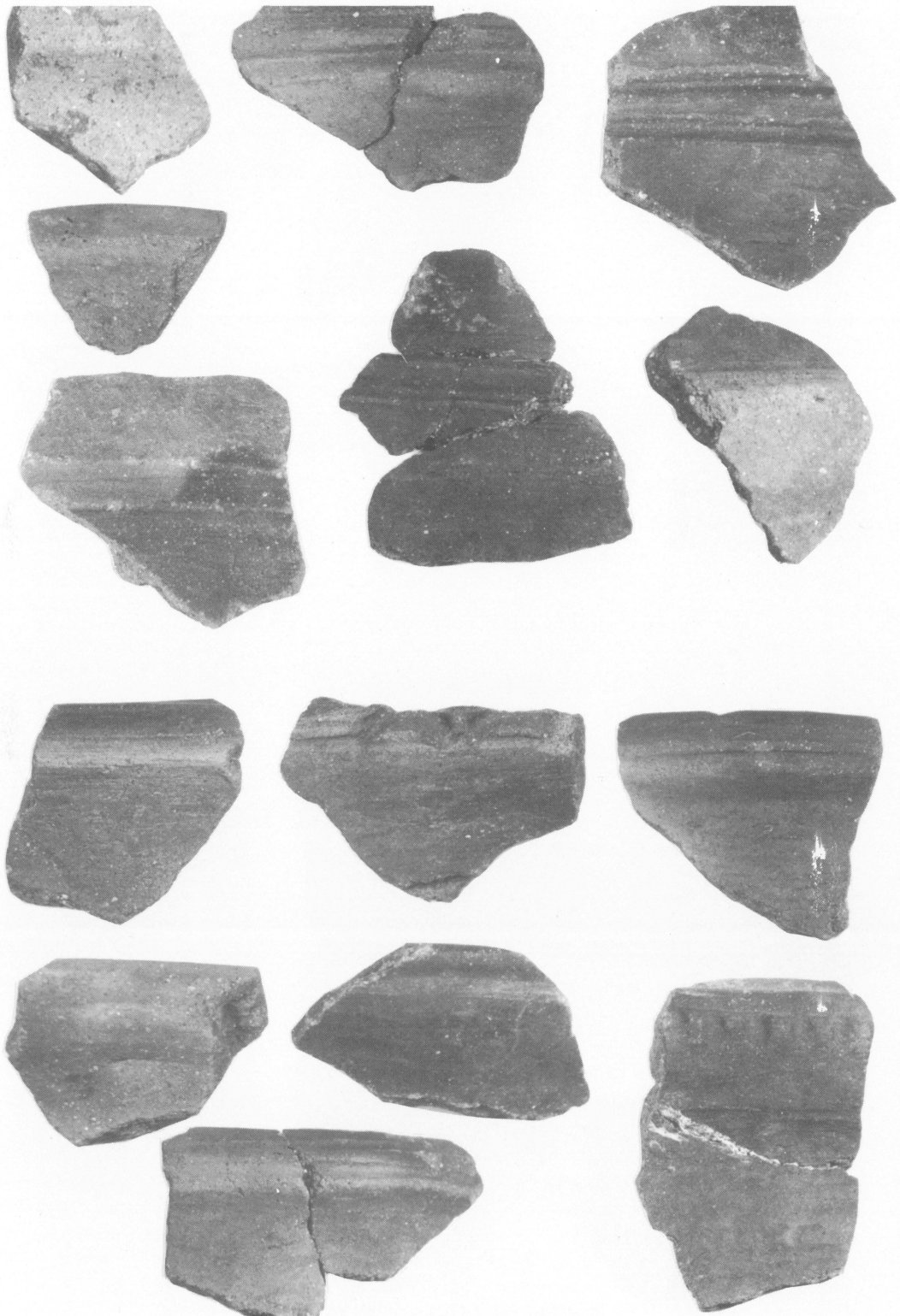
图版 9 A 地点出土遺物(1)



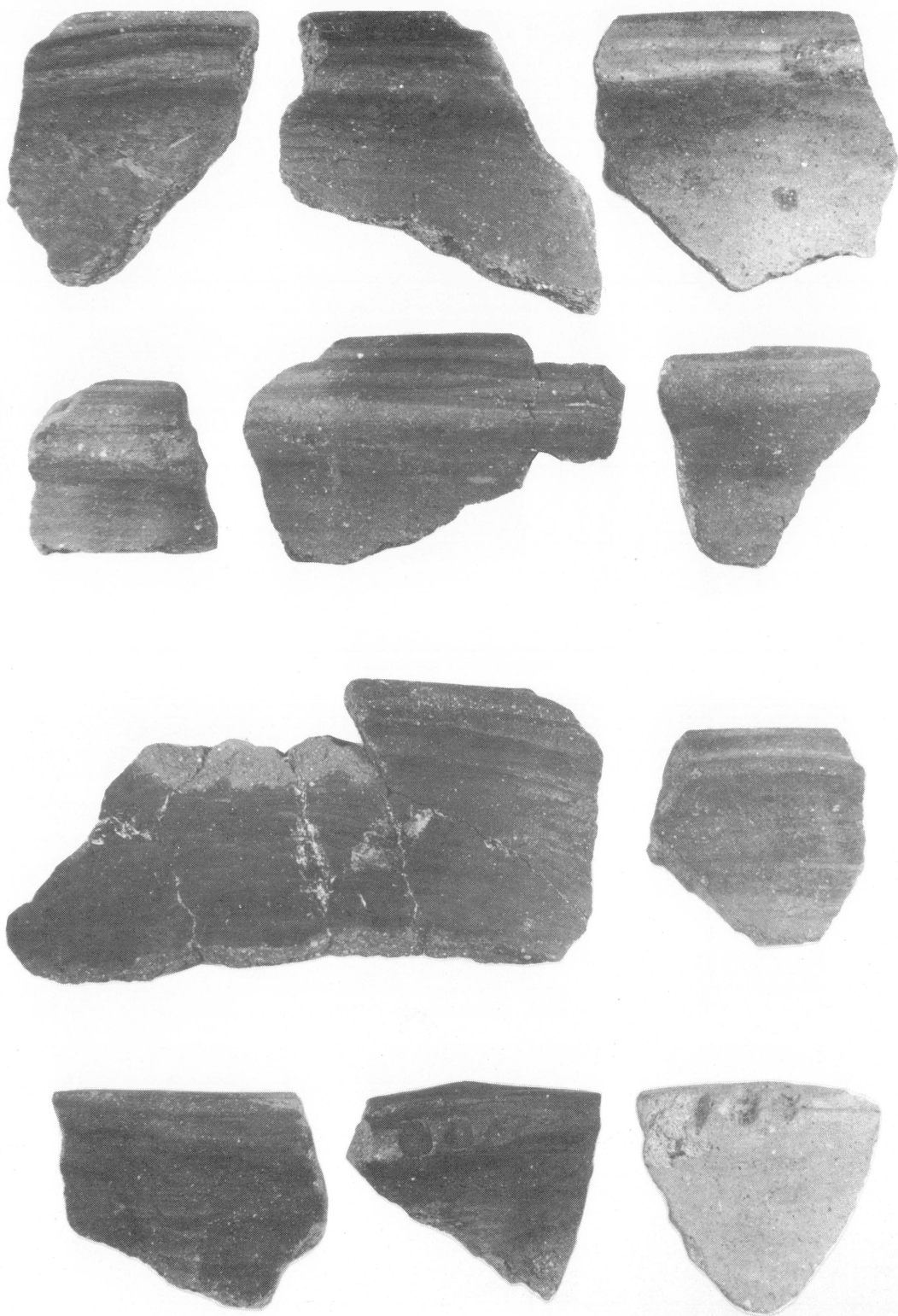
图版10 A地点出土遺物(2)



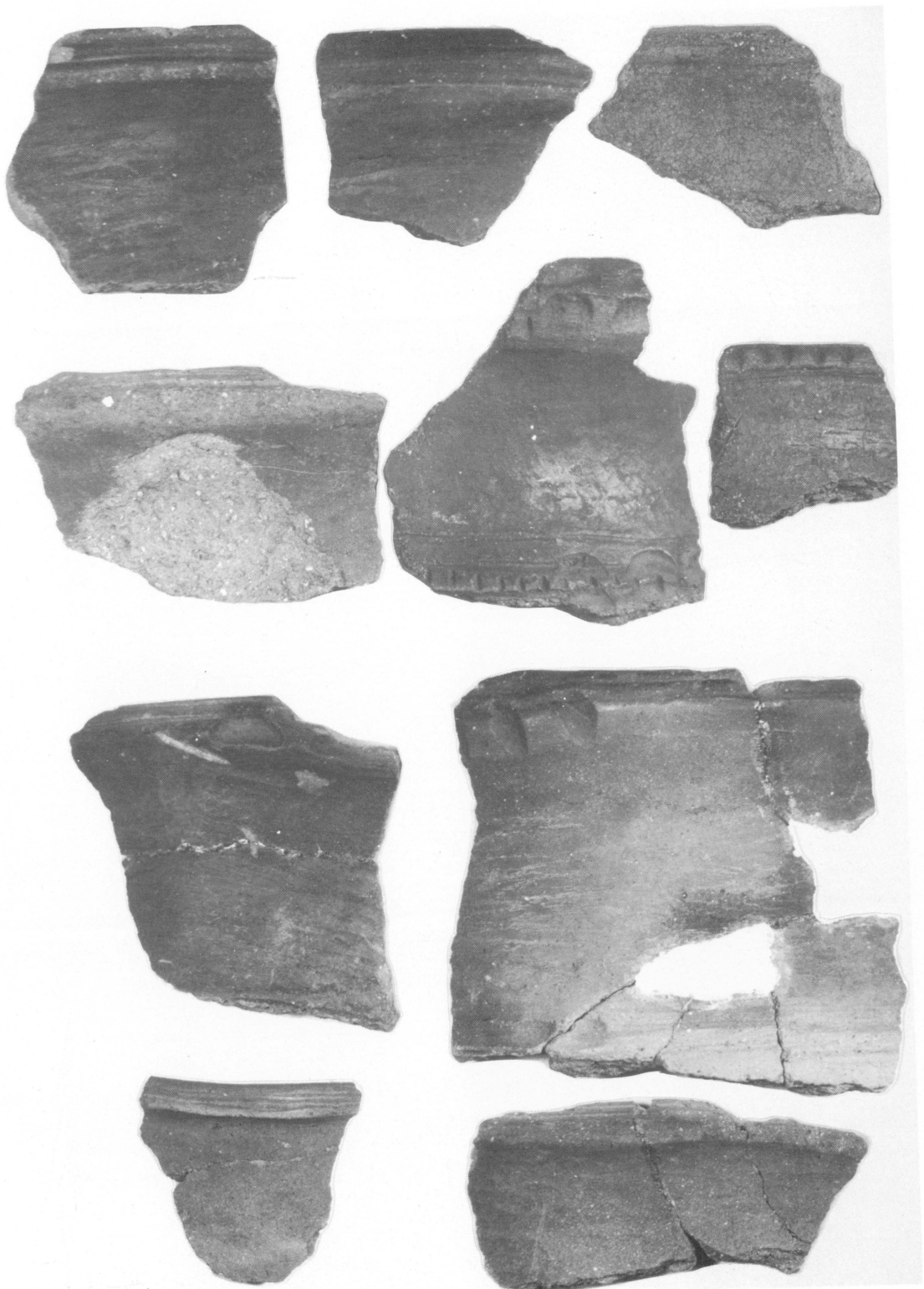
图版11 A地点出土遗物(3)



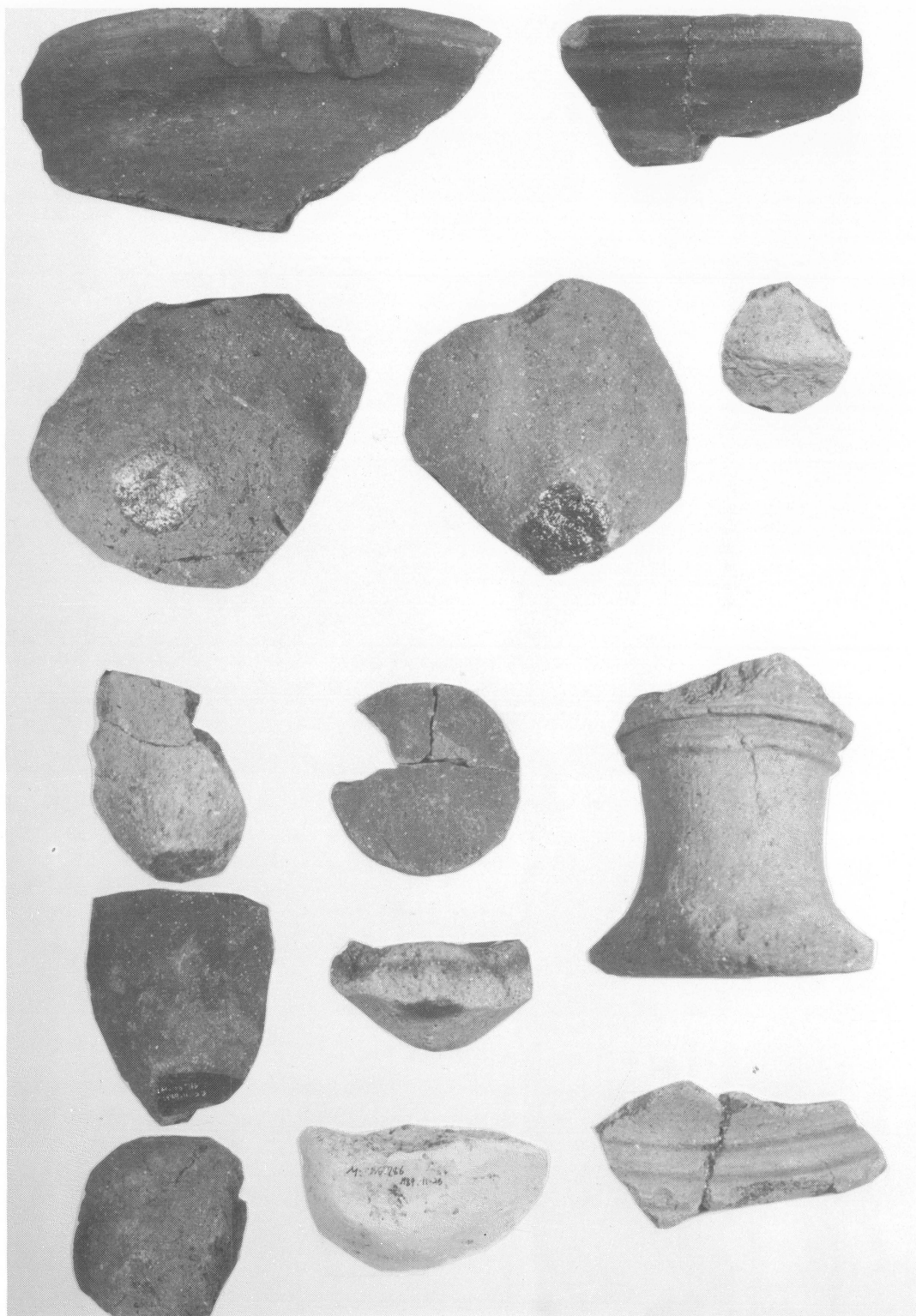
图版12 A地点出土遗物(4)



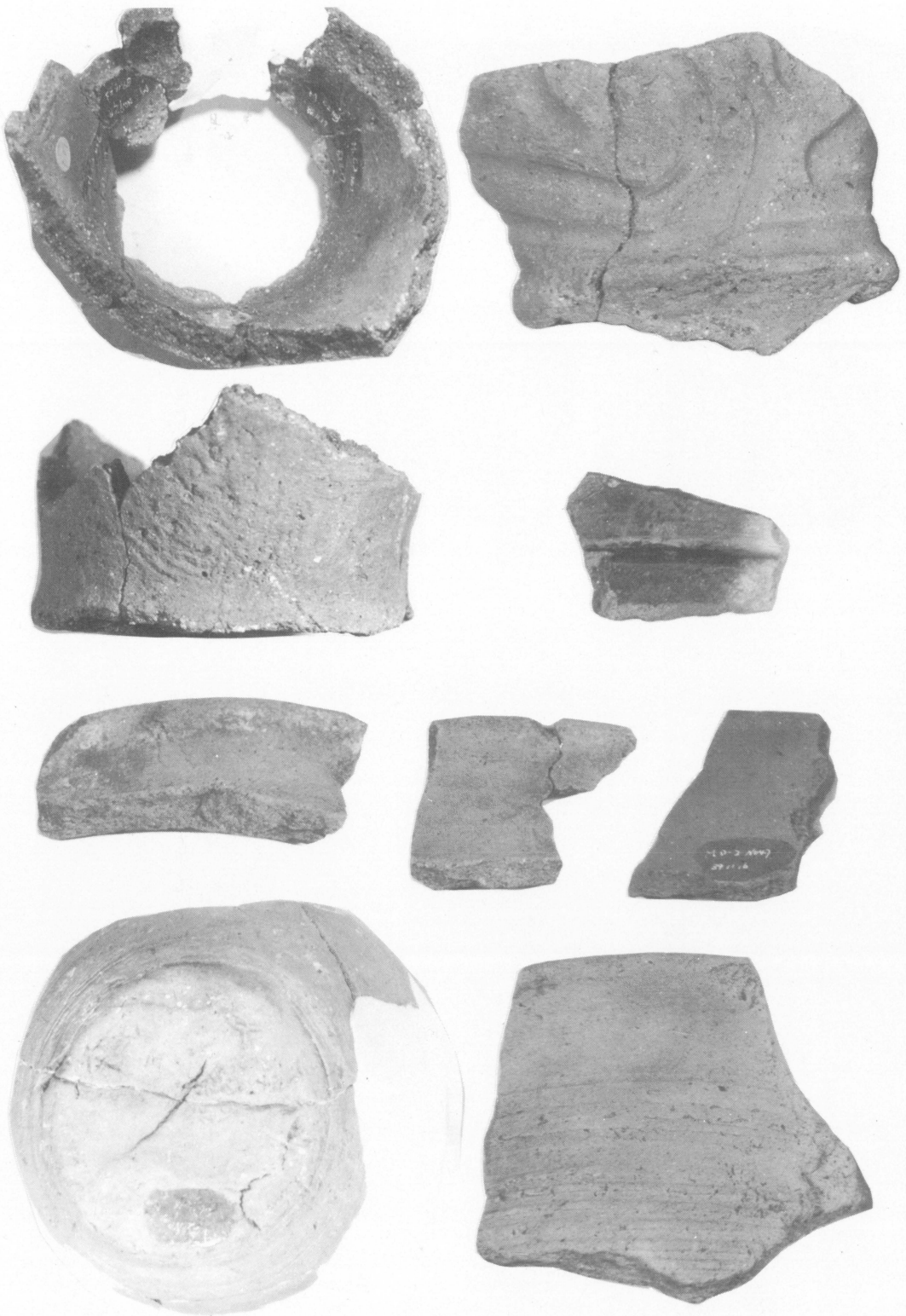
图版13 A地点出土遺物(5)



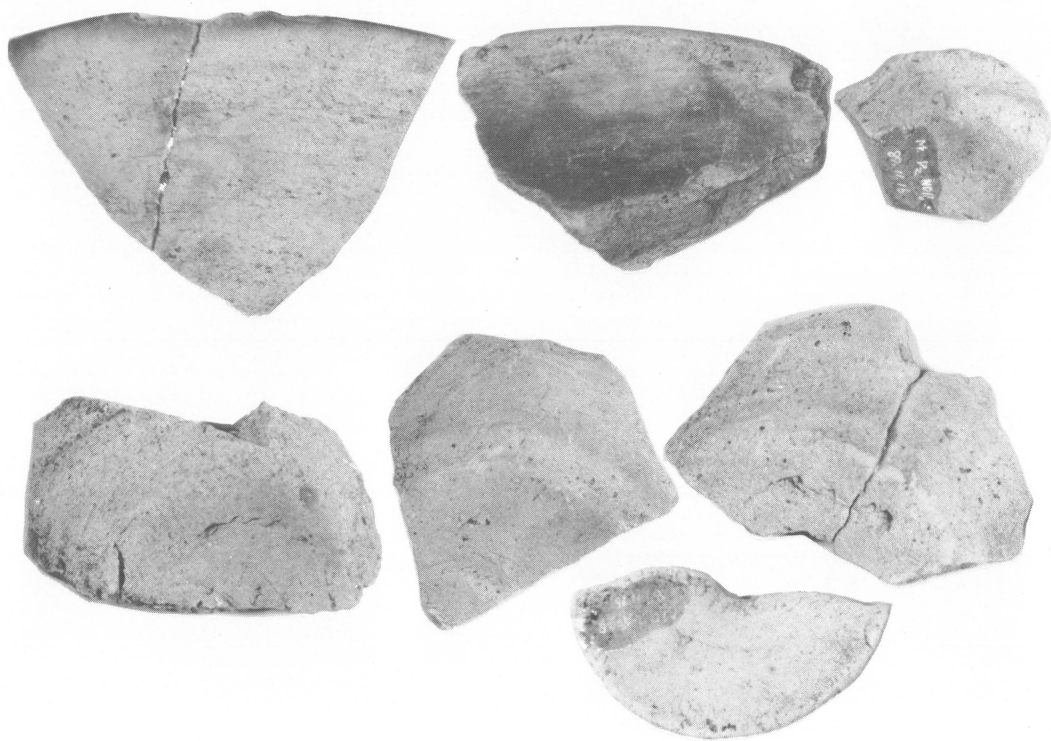
图版14 A地点出土遺物(6)



图版15 A地点出土遺物(7)



图版16 B·C地点出土遺物



图版17 C地点出土遺物

発掘作業員

加世田エイ子 富吉カオル 徳増ツル 坂元優子 日高国夫 釘田ヒサエ 永田千美子
有野悦子 加世田悦子 若松京子 安楽ナミ 中山イチ子 徳増ハツエ 池ノ原ノリ子
安楽百合子 吉元縵子 西留節子 阿多久子 永田ハル 安田美奈子 脇田真砂代
東イサ 重永ヒデ 永田ツユ子 上ノ園芳子 上ノ園克昭 丸山ツルカ 山口キミノ

整理作業員

東イサ 脇田真砂代 坂元優子

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書（7）

牧ノ原 A 遺跡

牧ノ原 B 遺跡

大原 遺跡

発行日 1991年 3月

発行者 鹿児島県曾於郡松山町教育委員会
〒899-76鹿児島県曾於郡松山町新橋268

